

2019年度 自己点検・評価シート

基準11 教学ビジョン(4つのクオリティ)

*各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>⑤ ●教学ビジョンの実現に向け、キャンパス・クオリティを向上させる取り組みが行われているか ○各組織の長所・特色となるような取り組みの実施 ・エコキャンパス宣言への取り組み</p>	<p>[現状説明] [現状説明] 創立110周年(2010年10月23日)にあたり、本学キャンパスに集うすべての者が、持続可能な社会の創造を自らの責任として自覚し、環境方針の下に、エコキャンパスの一層の推進を目指すことを宣言した。 この宣言の実施・点検者としてエコキャンパス推進委員会が位置付けられ、年度計画を立て活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のゼミ活動を中心とした動きと、法人による設備投資の両方の側面から、活動を展開している。 ・国分寺キャンパスの一部が国分寺崖線にかかるため、これを保全することを念頭に活動を計画している。みどりの保全事業を予算化しており、毎年専門家による講習および、不要な樹木(外来種、倒木等)の伐採を行っている。基本的にボランティアを中心としてお金のかからない活動が行われている。新次郎池については手作りの案内板を手始めに魅力化の活動が着手されている。一方で、キャンパスの中心部では雨水浸透施設などの設備投資が行われ、地下水への配慮がなされている。 ・エネルギー使用量の削減については、従来は設備投資による削減を行ってきた。今後は分析を加え、どのような方法が削減効果が大いのかを見極め、使用方法などを見直す時期に来ている。手始めに長期休暇中に開館する棟を絞る呼びかけなどに取り掛かったところである。 ・ごみの排出量削減に関しては、ポスターによる分別の促進や、レジ袋の廃止、大学祭でのリサイクル容器の採用など削減に向けた努力を行っている。たばこについては、ごみ削減以外にも、健康面でのリスクを強調し卒煙への啓蒙活動を行ったうえで、建物内完全禁煙を実施し、屋外での分煙施設を整備している。 ・数ある環境目標の実現にむけて大幅な改善は見られないものの、地道な活動により少しずつながら内容を向上させて来たところである。 <p>[長所・特色] 本学キャンパスの緑と水の特徴を生かした目標となっている。 「本学キャンパスに集うすべての者」を対象としたことが、多様な人の連携強化を進める上で重要である。</p> <p>[問題点] 環境方針の目標の中に、達成に時間がかかる項目もある。学生と教職員への、活動内容と活動状況に関する情報提供の場をどのようなものにするのか、設定作業が必要になっている。大学周辺の住宅との相隣関係問題があり、キャンパスの緑化と防災(強風対策)のための木の剪定作業とのバランス調整が必要になっている。村山キャンパスの受動喫煙防止の施設整備が進んでいない。</p>	<p>目標①みどりと水のあふれるキャンパス 創立120周年記念事業として今回特別なプロジェクトとなる新次郎池周辺の整備が本格的にスタートする。エコキャンパス推進委員も参加している臨時プロジェクトである「緑と水作業部会」において具体化を行い、今年度中に設計完了し着工するまでが目標となる。 新次郎池周辺の魅力化を進め、池の湧水の確保をめざす。 崖線緑地の保全においては、市民参加による管理作業と植生調査を継続する。</p> <p>目標②低炭素型キャンパスをめざす 今年度も実施内容を中心に評価し、具体的な数値目標は掲げない。設備投資は蛍光灯の寿命が来た5号館のLED化を大教室から行い、および他の棟で器具の寿命が来たところからの地道なLED化も継続して取り組む予定である。また、国際交流会館のLED化を完了する予定である。</p> <p>目標③キャンパスのごみダイエツト 分別回収を徹底するため、とくにプラスチック容器やレジ袋の削減に努める。学園祭においては、学園祭実行委員会と連携して、「リ・リパック」の導入を徹底し、プラスチック容器・トレーなどの不燃ごみの排出を大幅に少なくする取り組みを継続する。</p> <p>目標④「環境の時代」の人材育成を目指すキャンパス 誰もが快適に過ごせるキャンパスづくりのため、村山キャンパスの分煙施設整備を行う。喫煙率の低下のために、喫煙防止・卒煙の学びを全学で進めるための仕組みづくりを検討する。 客観的な指標 目標④ 分煙施設整備の進捗。職員の卒煙者数と喫煙率。</p>	<p>①2019年度の取り組みとその成果 目標① みどりと水のあふれるキャンパス 新次郎池周辺整備の具体的な内容を検討する「緑と水作業部会」に当委員会のメンバーが参加し、検討を行った。2019年12月、実施案が承認され、2020年2月より着工している。 崖線緑地の保全活動は、学生、地域住民の参加を得て、6回実施した。実施にあたっては専門家を招き、助言、指導を受けた。</p> <p>目標② 低炭素型キャンパスをめざす 今年度は、5号館大教室と100周年記念館地下のLED化を実施した。</p> <p>目標③ キャンパスのごみダイエツト 学内で発生する溶解書類をトイレトペーパーに加工する処理業者に変更し、リサイクル化を推進した。</p> <p>目標④ 「環境の時代」の人材育成を目指す 2019年6月からの東京都の禁煙条例に対応するために、村山校舎の喫煙場所の整理を行った。新入生には喫煙によるリスクを知らせるパンフレットを配布した。</p> <p>②2019年度の取り組み後の問題点(課題) 目標① 新次郎池周辺整備が完了した後の利用と環境保全について検討する必要がある。 目標② LED化を計画的に実施することが必要である。 目標③ 当初、昨年に引き続きリ・リパックの使用を葵祭実行委員会と検討していたが、担い手となる学生が不足したため実施できなかった。リサイクル推進について、教職員・学生にさらに周知することが必要である。 目標④ キャンパス整備に伴い、国分寺キャンパスの喫煙場所の再検討が必要である。</p>	<p>A</p>		<p>エコキャンパス宣言に対する検証をお願いいたします。</p>